



令和元年度熊本家庭裁判所

家裁調査官インターンシップ

実施結果報告書

令和元年8月22日、熊本家庭裁判所では家裁調査官インターンシップを開催しました。

11名の学生の皆さんに参加していただきました。当日のプログラムの様子を学生の皆さんの感想とともに、紹介します。



家庭裁判所キャラクター
ガークン

1. 職務説明

家裁調査官の仕事の内容について、家事事件と少年事件それぞれについての概要や、家裁調査官の一日の仕事の流れについて説明しました。

- ・用語についても説明があり、家裁調査官の仕事について詳しく知ることができた。
- ・事案を例示してくれて分かりやすかった。もっと色々なケースを聞きたかった。



2. 家裁調査官による子どもの調査について

家裁調査官による子どもの調査が必要となる場合や、一般的な調査の方法について説明し、架空のケースをもとに、どのように家裁調査官が調査を行っていくのか説明しました。

- ・具体的事例をもとに説明してもらったので分かりやすかった。どのように子どもと接しているのかを知れて良かった。また、子供の素直な感情を引き出すのは難しそうだと感じた。
- ・人生の決断になる場合もあることが理解できた。家裁調査官の専門知識の高さを感じられた。

3. 庁舎見学

実際の法廷、少年審判廷や面接室のほか、家裁の特徴でもある子供向け面接室を見学しました。また、家裁調査官の執務室も見てもらい、職場の雰囲気を感じてもらいました。



4. 少年事例検討

架空の事件をもとに、少年事件における家裁調査官の仕事を体験してもらいました。班ごとに分かれて、事例を検討し、少年との面接で何を聞くか、様々な視点から自由に発想してもらいました。

- ・正解がないとのことだったので、自由に考えることができて楽しかった。
- ・話しやすい雰囲気の中で、他の参加者の視点を聞くこともでき、とても有意義だった。
- ・事件の内容から、その背景を考える難しさを実感した。また、家裁調査官の職務の重要性を感じた。



5. 調査面接体験

検討した事例をもとに、家裁調査官になりきって、少年との調査面接を体験してもらいました。

- ・実際に体験してみると、少年から話を聞きだすことの難しさを実感した。
- ・もっと、体験してみたいと思った。
- ・家裁調査官の専門性の高さを感じることができて有意義だった。



6. 座談会

家裁調査官に、いろいろと聞いてみたいことを質問してもらいました。和やかな雰囲気の中、仕事の大変さや楽しさ、経歴など、積極的に質問が出ていました。

- ・丁寧に質問に答えてもらい、実際に働いている人の声が聞けて良かった。
- ・家裁調査官同士の仲が良く、素敵な職場環境であると感じられた。
- ・仕事のやりがいや志望動機など、生の声を聞くことができ、より家裁調査官という仕事に興味を持った。

